

地方独立行政法人 鳥取県産業技術センター

～職場としてのご紹介～



1

鳥取県産業技術センターとは

- 鳥取県が設立した地方独立行政法人です。
- 鳥取県内企業の製品開発・技術支援や、企業ニーズにもとづく実用研究等を担う工業系公設試験研究機関です。
～「ものづくり企業のパートナー」～
- 職員は、地方公務員の身分を有しており、鳥取県職員と同様の勤務体系、福利厚生制度のもとで働くことができます。

1 研究職員の仕事、やりがい

3



研究職員の仕事は、大きく分けて県内企業の技術相談や機器利用等に関わる「支援業務」と、県内企業のニーズに基づく「研究開発業務」です。
製造現場にコミットし、専門性を活かして県内企業の成長・発展に直接的に関わることができます。

■ 支援業務

【技術相談】

製品開発や生産工程などの課題を伺い、専門家としてどのような支援ができるか提案し、課題改善・解決に向けて伴走支援します。

【機器利用】

企業に試験機器を貸し出し、安全に試験・分析を行っていただけるようサポート。得られたデータの解釈方法などの説明も行うこともあります。

【依頼試験】

企業が求める内容を踏まえ、製品などの評価や解析などを行います。

【技術人材の育成】

自社課題をテーマにした個別研修を実施したり、技術の進化に応じた新たな知識や分析手法、機器操作、品質管理などを学んでいただくセミナーや研修会などを企画・開催します。



■ 研究開発業務

技術相談などをもとに、新たな技術や製品の開発など県内企業のニーズに基づいてテーマを設定し、研究を行います。

- 県内企業や大学等とチームで取り組んで共同研究を行う場合もあります。
- 科研費などの競争的外部資金を獲得し、県内企業や大学等と取り組む場合もあります。

4

2 産業技術センターが求める人材像

5

鳥取県内の製造業（ものづくり）企業の支援に向けて、
こんな人材を求めています。

■ 企業が抱える課題を聞き取り、可視化できる人

▶ **聞く力、課題の整理力**

■ 企業が抱える課題をどのように解決、改善するかを探求できる人

▶ **企業現場や同僚研究員と意見を交わしながら提案する能力・知見**

■ 企業課題の解決に向けて、自身の成長にも積極的に取り組める人

▶ **経験を活かせる力、技術動向など自ら学ぶ力**



6

3 先輩研究員の声

7



平成25年採用(勤務年数11年)
所属：電子・有機素材研究所 有機材料グループ



鳥取県産業技術センターを志望したきっかけを教えてください。どんなときにやりがいを感じますか。

自分が携わった技術やアイデアを世の中に出せる仕事がいいな、と研究の自由度がある公設試の研究職員を選びました。2年目には、上司や先輩研究員の助言をもらいながら、大学での学びと県内企業のニーズを組み合わせるテーマを設定し、自分が担当する研究を立ち上げました。

採用当初は、企業からの相談対応と研究業務の両立と、バランスをとりながら業務を進めることに苦慮しましたが、上司や先輩研究員と情報共有したり、相談したり、助けてもらったりと常にコミュニケーションをとって進め方を学びました。

企業からの相談は、「今すぐ、早く解決したい」という急ぎのものも多いです。状況をよく伺い、お困りごとに添う解決方法をご提案できたときはお役に立てたと嬉しく思います。

今後、どんな研究員になっていきたいですか。

研究員は、1人でできる仕事は限られていて、企業との信頼関係を築きながら、専門分野の異なる同僚研究員や企業対応の経験が豊富な上司とチームになって対応していかなければならないと感じています。

企業からの幅広い相談に対して、学生時代の専門分野以外でも、積極的に、間口を広く学び続けることが求められます。産業技術センターが目指す方向性を踏まえ、自分の専門性を活かして、いかに企業に使ってもらえる技術、研究成果を生み出すかにチャレンジしていきたいと思っています。

8

令和5年採用（勤務年数1年）
所属：機械素材研究所 システム制御グループ



鳥取県産業技術センターを志望したきっかけを教えてください。どんなときにやりがいを感じますか。

身近な自然現象を追究する物理に面白さを感じ、大学で物理を学びました。卒業後は半導体メーカーに就職し、センサー開発などに携わりました。自身が関わった製品が世に出ていく、新しいモノを生み出す楽しさがありましたが、鳥取に帰ることを考えていたので、100周年記念の新聞記事を見て産業技術センターに興味を持ち、採用試験を受けることにしました。

現在、センターのロボットハブを活用した生産現場の自動化・省力化などに取り組んでいます。センター研究員の仕事は、自分で考え、提案できる自由度、考える余地を任されていることが魅力です。企業からの相談に対して、自分ならこんなことができます、などと提案して受け入れてもらえるとうれやがあります。相談の中で、企業側でも思いもなかったところに課題があることを発見してご提案したりと、継続的な伴走支援につなげています。

今後、どんな研究員になっていきたいですか。

自動化、省力化を実際に現場導入することは、技術面でもコスト面でも容易ではありません。生産現場の自動化に取り組む企業に接すると「何とかお役にたたい。」と思います。

自動化は人口減少時代における必然のテーマで、特に鳥取県にはなおさら必要です。県全体で取組が進んでいきますが、この中に自分も関わって、ロボットハブの模擬検証結果を踏まえて、企業にロボットを導入していただけるように貢献していきたいです。

9

平成28年採用（勤務年数8年）
所属：企画・連携推進部（専門：食品科学・水産食品科学）



鳥取県産業技術センターを志望したきっかけを教えてください。どんなときにやりがいを感じますか。

もともと食べるのが好きで、食を通じて人の健康に関わりたいと思い、大学で食品科学を学び、食品メーカーに就職しました。商品開発に携わりたいのですが、研究セクションに配属され、結婚を機に鳥取に来たこともあり、かつ、仕事を長く続けたかったので、ちょうど募集をしていた鳥取県産業技術センターを受験するにいたりしました。

企業からのお困りごとの相談対応も多いのですが、特にオーダーメイド型人材育成研修で指導を担当した企業の技術者の方が、はじめは覚束なかった分析機器の操作がどんどん上達され、自分でこなされていく様子を目の当たりにすると、とてもお役に立っていると実感します。

現在、どんなお仕事を担当していますか。今後、どんな研究員になっていきたいですか。

現在は、企画部門でプロジェクト企画や組織内の調整を担当していますが、並行して、企業とのコラボによる商品開発も進めています。全く分野の異なる業務ですが、在宅勤務や看護休暇など、育児を応援する制度をフル活用して時間を調整しながら、FOODEX JAPAN出展など新たなチャレンジも含め、やりたかった商品開発にも取り組み、貴重な経験を積んでいると感じます。

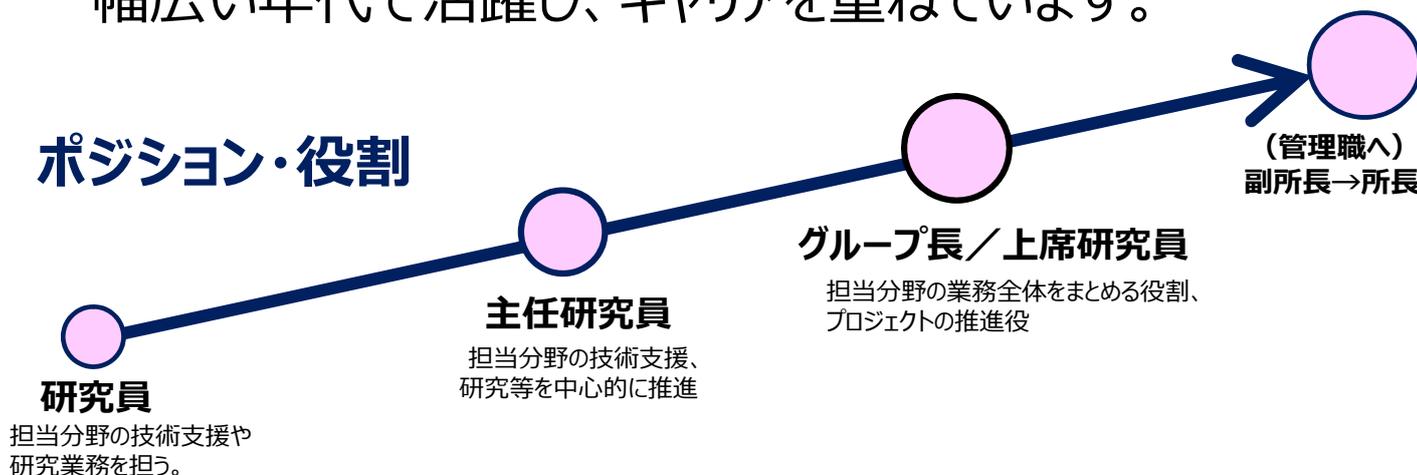
食品開発においては、雑談の中からも新しいアイデアが出てくるので、企業との接点を多く持って、鳥取県の素材を活かした、おいしくて健康にいい食品開発に貢献していきたいです。

10

■研究員のキャリアパス

グループリーダー・上席研究員、主任研究員、研究員と、幅広い年代で活躍し、キャリアを重ねています。

ポジション・役割



4 任用条件、待遇など

～産業技術センターの研究職員は、公務員です。～

12

(1) 給与について



鳥取県職員の給与体系に準じた給与・福利厚生制度です。

■ 初任給

(令和6年4月採用の場合)

経歴等	月額基本給
令和6年3月大学卒	210,200円程度
令和6年3月大学院修士課程修了	229,400円程度
令和6年3月大学院博士課程修了	253,200円程度

- ・研究職歴や関連職歴等に応じて加算されます。
- ・このほか、期末勤勉手当4.2か月分、給料及び手当等は鳥取県職員の例によります。
- ・昇給は年1回あります。

(参考) 修士修了後、センターに15年程度勤務された方の月額給与及び年収の例

月額給与 約34万円

年収 約570万円 (基本給、諸手当等) /うち期末勤勉手当 (ボーナス) 約150万円

13

(2) 職員それぞれのワークライフバランスを大切にしています。

■休暇等

- ・休日 土日、祝日、12/29～1/3
- ・年次有給休暇20日
- ・特別休暇
 - 夏季休暇：5日間
 - ボランティア休暇（災害支援、福祉活動等）：5日間
 - 介護休暇：通算して6月を超えない範囲で3回以内



など

■育児を応援する制度

- ・お子さんが3歳に達するまでの育児休業
- ・小学校就学時までの育児時短勤務
- ・お子さんの看病などにおける看護休暇

当センターには、3か月の育休を2回取得して
育児に奮闘する男性研究員もいます。



14

(3) 博士号、技術士取得など ご自身の成長、キャリアアップ®を支援

- 学位等取得者数
 - ・博士号取得 21名
 - ・技術士取得 3名
- 社会人博士課程在籍中 2名
- 挑戦を応援する職場環境



15